



年 組 名前

道新でワークシート

H2A最終機打ち上げ成功

国産ロケット 50回で成功率98%

三菱重工は29日午前1時33分、国産大型ロケット「H2A」の最終号「いぶきGW」を載せ、打ち上げられるH2A



温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」を載せ、打ち上げられるH2Aロケット50号機。29日午前1時33分、鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げた。16分後、

搭載した国の温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」を予定の軌道に投入。打ち上げは成功した。2001年以来、50回の打ち上げを成功率98%で終えた。

政府の衛星や探査機の輸送を担う基幹ロケットの役割は、23年に導入された「H3」に完全移行した。打ち上げ価格を抑え、民間を含めた顧客のニーズに柔軟に対応できる国際競争力の確立が課題となる。

機体はエンジンに着火すると、ごう音と共に浮上。大きな光の弧を描き、星空に消えていった。衛星は赤道近くの高度約670キロでロケットから分離し、太陽電池パネルを展開。正常に動作していることが確認された。

三菱重工の鈴木啓司・打上執行責任者は記者会

見て「これまで以上に緊張した打ち上げで、まだ夢を見ている気持ち。悲願だった98%の成功率を達成できた」と喜びを語った。

H2Aは宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した2段式の液体燃料ロケット。03年の6号機で失敗したが、その後は細かな異常でも検証し改善することで実績を重ねた。07年の13号機からは打ち上げ事業を三菱重工に移管した。

いぶきGWは環境省と国立環境研究所、JAXAの共同プロジェクト。新開発のセンサーで二酸化炭素（CO₂）やメタンの濃度を広範囲に高精度で観測する。海面水温や降水量など水の動きも捉え、気象予報の精度向上に役立てる。



年 組 名前

道新でワークシート

(1) 今回打ち上げたH2Aロケットは何号機でしたか。

(2) H2Aロケットの打ち上げは、今回分も入れて、これまで何回成功し、何回失敗したことになりますか。

(3) H2Aロケットの1回の打ち上げには、約100億円もの費用がかかるそうです。

※ (2024/02/18 (日) 北海道新聞朝刊全道(社会) 22ページ「H3打ち上げ成功＊ビジネス参入へ課題＊低コスト化や信頼性向上」参照)

打ち上げに携わった人たちは、このH2Aロケットの打ち上げ成功率を、高いと感じていますか。それとも低いと感じていますか。どちらかを選び、それが分かる文や語を書き抜きましょう。

(4) あなたはH2Aロケットの打ち上げ成功率を、高いと思いますか。または、低いと思いますか。どちらかを選び、その理由を書きましょう。